

花 橘

日々を楽しむ

教頭 川野 光正

発行日

令和3年3月19日

第12号

発行・編集

三崎高校総務課

二〇一一年三月十一日十四時四十六分頃に東日本大震災が発生し、今年で十年になりました。当時、津波に襲われる映像を目にしたとき、何とも言えない感情が沸き起こり、涙が溢れて止まりませんでした。また、二〇一八年には西日本豪雨を体験し、大洲市に居住している私は住宅等に直接被害を受けるとともに、変わり果てた街の様子に再び涙が溢れました。

今振り返ると、悲しいとか辛いとかの感情以上に、日々の当たり前の生活が当たり前ではないことを実感し、当たり前の生活を奪われる現実に直面したことで、言葉に表せない感情が沸き起こり、涙が溢れたのだと思います。

私は、東日本大震災後、「がんばろう日本」という合言葉の元、復興に向けて進む中で、人と人のつながりの大切さを強く実感し、今の当たり前を当たり前と思わず、些細なことでもありがたく思い、自分と関わる様々な人々に感謝の気持ちを持って接すること、苦しいことや辛いこと、しんどいと思うことを含めて日々を楽しむということに強く意識するようになりました。

話は変わりますが、以前次のような内容の記事を目にすることがありました。

制服を強制されるのは人権侵害であると主張していた日本の高校生が外国で開催された子供の人権を考える会議に参加し、日本での人権侵害について訴えた。自分たちの辛さや苦しみに対して理解を得られると思っていたら、次のような答えが返ってきた。

「ここで話し合われているのは学校に行けない子供の人権保護だ。君たちは立派な制服を着て学校に通い、外国にまで来ることができている。幸せだと思わないか？」

日本では「勉強したくない」、「人間関係が嫌だ」、「生きるのがしんどい」、「ルールに縛られ自由がない」といったことを軽々しく訴える人々が増えているように感じます。皆さんは自分自身を振り返ってどうでしょうか。

何が幸せで、何が不幸せかは個人差もあり、一概には言えません。また、何が楽しくて、何が楽しくないかも同じです。しかし、幸せだと思ふこと、楽しいと思ふことが多い方がいいのは間違いないと思います。何を基準にするかで、楽しさや幸せに大きな差が生まれます。私自身、経験を重ねることで、日々を楽しむことが以前よりできるようになり、合わせて幸せと感ずることが増えてきました。そして日々を楽しむことができれば、次の楽しみと幸せが次々とやってくる好循環につながるということにも気づきました。(逆を言えば不平不満ばかり言っていると次から次へと不平不満が生まれてくるということです) 当たり前の日常に感謝し、何気ないことに楽しさを見出す力を育ててください。それが幸せにもつながるはずですよ。

私は人生の後半を迎え、色々と衰えを感じる年齢になりましたが、これからの日々を楽しみ続けたいと思います。そして、それが自分及び自分を支えてくれる周りの人々の幸せにもつながるということを信じています。

第70回卒業証書授与式

3月1日に23名の3年生が卒業しました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、時間を短縮したほか、在校生は教室で中継を見て参加する形式としました。川本昌宏校長先生の式辞では、本校で学んだ価値観や行動力を宝物にし、社会に貢献するよう勧められました。在校生代表の島田晃佑さんが送辞において、地域おこしなどで一生懸命に取り組む先輩を通して学んだことや今後の決意を述べました。それに対して卒業生代表の楠彩菜さんが、3年間の学校生活で学んだことや感謝を述べるとともに、在校生に失敗を恐れずに多くのことに挑戦し、努力することを勧めました。卒業生退場の時には、ZOOMの機能を用いて教室から在校生が手を振って見送る様子を体育館後方に上映しました。

卒業生は学習活動をはじめ、地域おこしや部活動など多くのことを成し遂げ、立派に成長しました。在校生は4月に入学する新1年生の手本としてふさわしい学校生活を送り、さらなる進歩を遂げてほしいと思います。

